

2. 札幌市の現状と交通課題

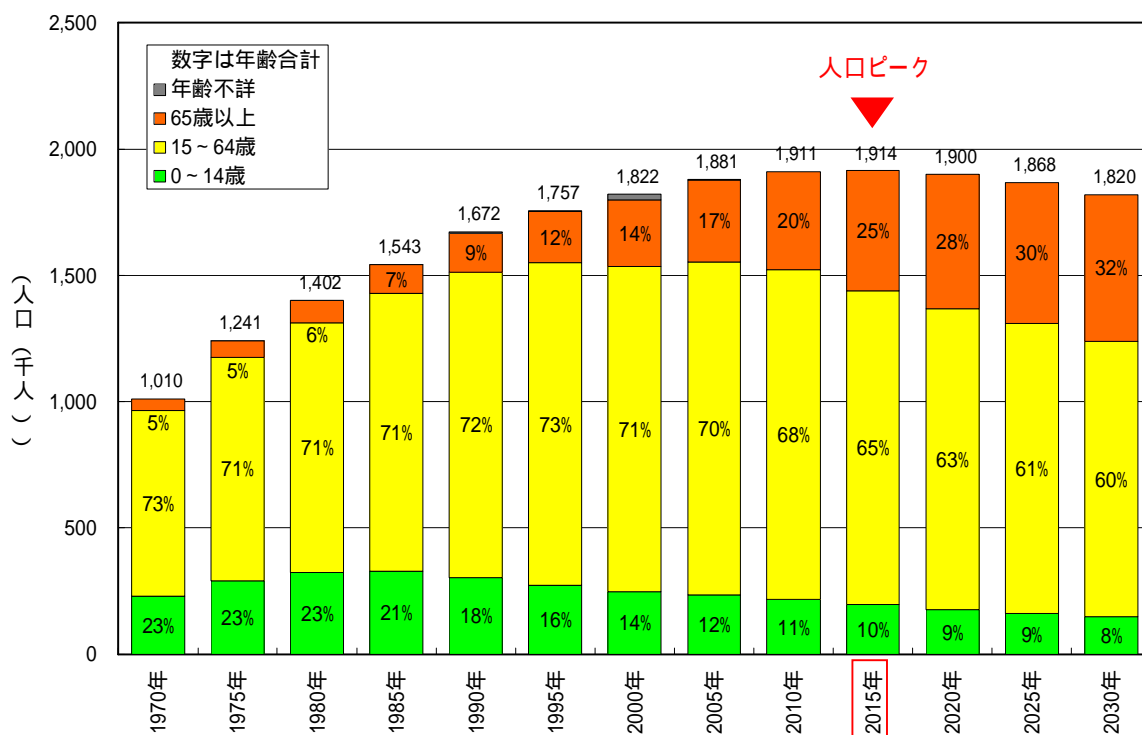
2-1 社会経済情勢の変化

2-1-1 人口減少と少子高齢化、都市内過疎

(1) 人口推移、少子高齢化

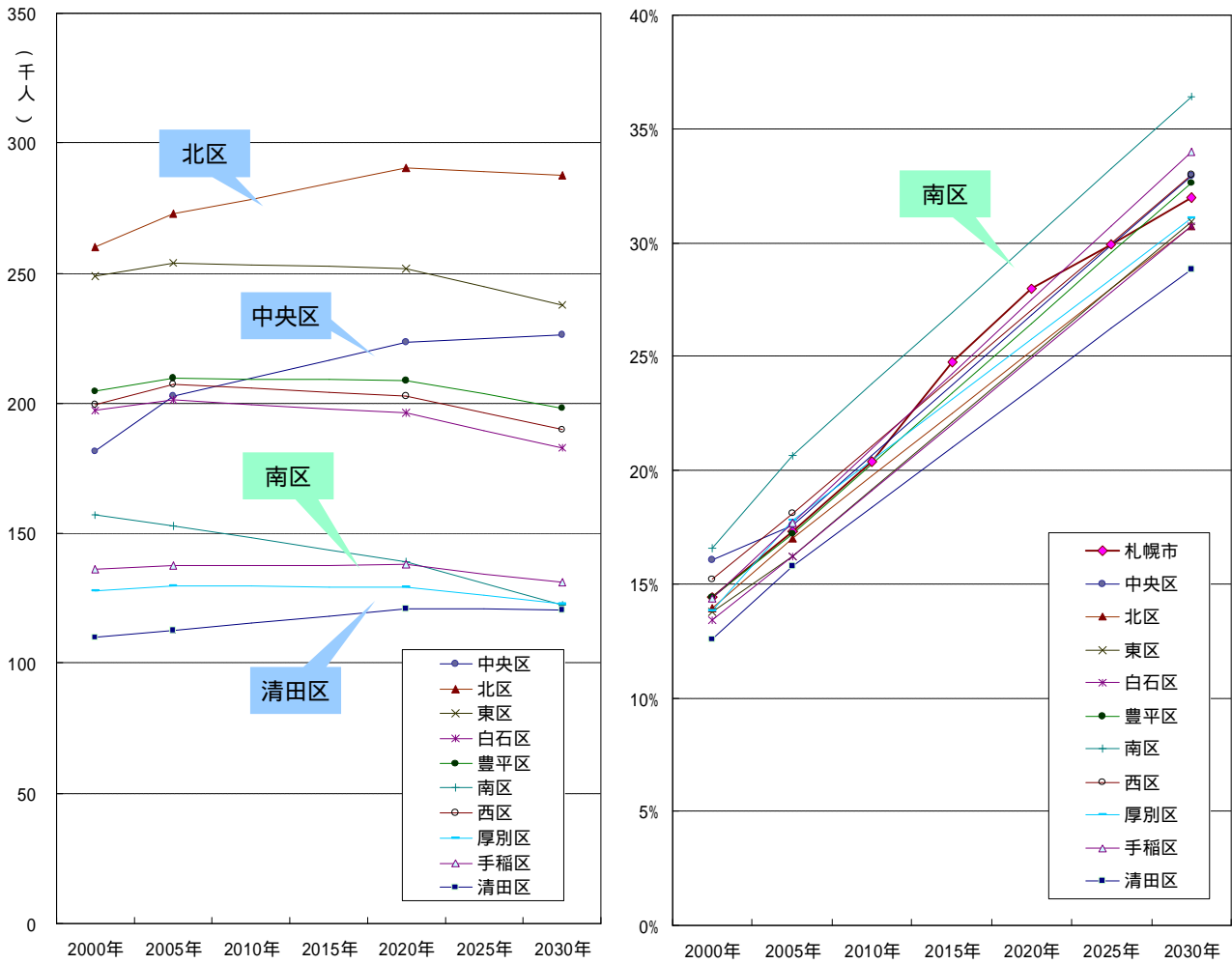
人口は増加から減少へ転じ、少子高齢化はいっそう進行。

- ・ これまで札幌市の人口は増加してきましたが、2015 年以降は人口減少に転じる見通しです。
- ・ 少子高齢化が急速に進み、高齢者割合は 2005 年の 17% から 2030 年には 32% まで上昇する一方で、年少人口割合は 2005 年の 12% から 2030 年には 8% まで低下するとの予測です。
- ・ 区別に見ると（次頁参照）中央区や北区、清田区では人口が増加しますが、南区では人口減少と高齢化が急速に進行するとの予測です。
- ・ 従来の右肩上がりを前提とした交通施策から大きな転換を図るとともに、急速に進展する高齢化を踏まえ、高齢者のモビリティ確保に向けた取り組みが必要です。



資料：国勢調査（2005 年まで）、国立社会保障・人口問題研究所推計値（2010 年以降）

図 2-1 年齢構成比の推移



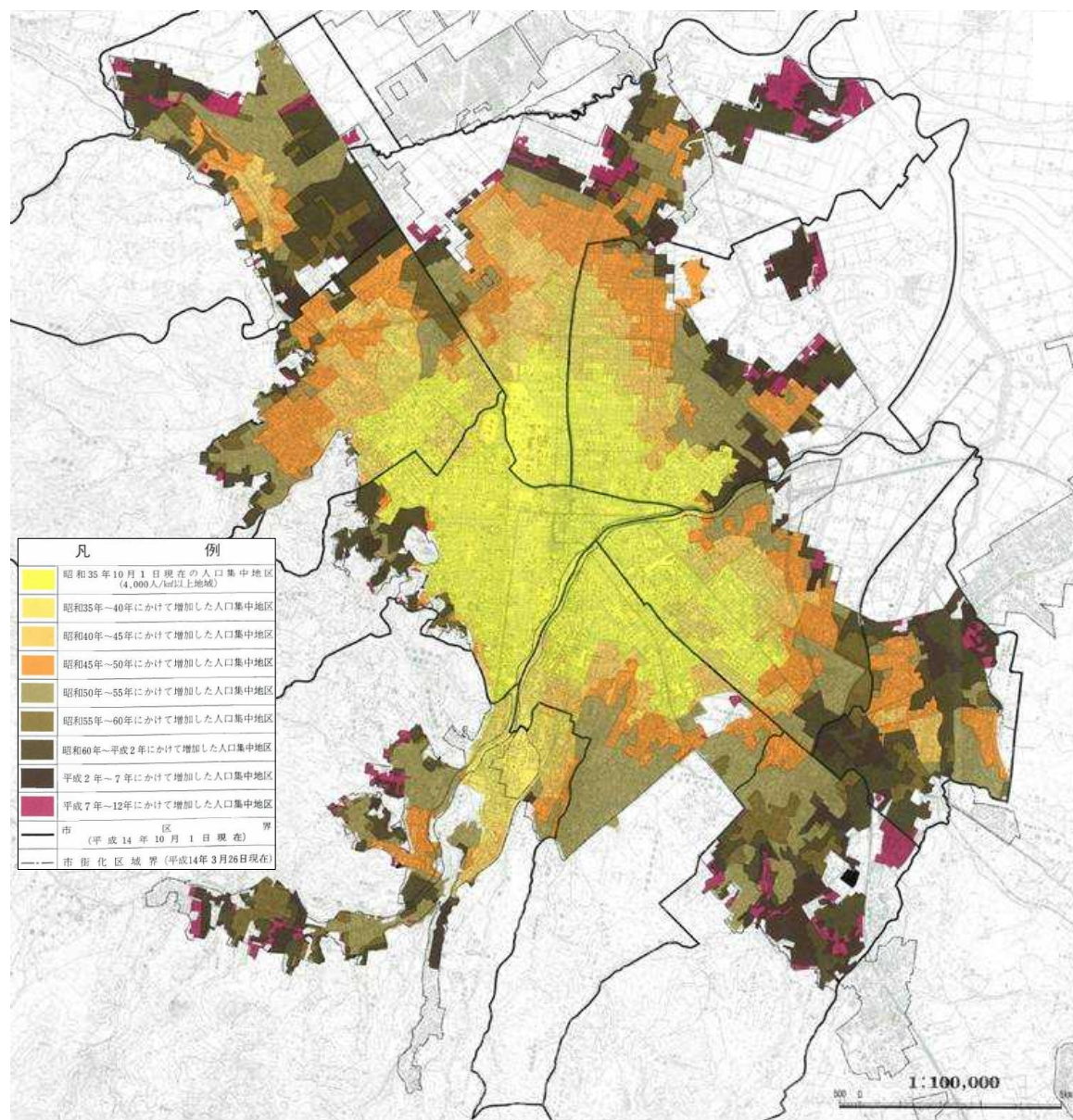
資料：国勢調査（2005年まで）国立社会保障・人口問題研究所推計値（2010年以降の札幌市合計値）
 第4回道央都市圏パーソントリップ調査（2010年以降の区別の値）

図 2-2 区別の人口推移（左）と高齢者割合の推移（右）

(2) 郊外拡大から拡大抑制へ

これまで郊外へ拡大してきた市街地。局所的に急速な高齢化と人口減少が懸念。

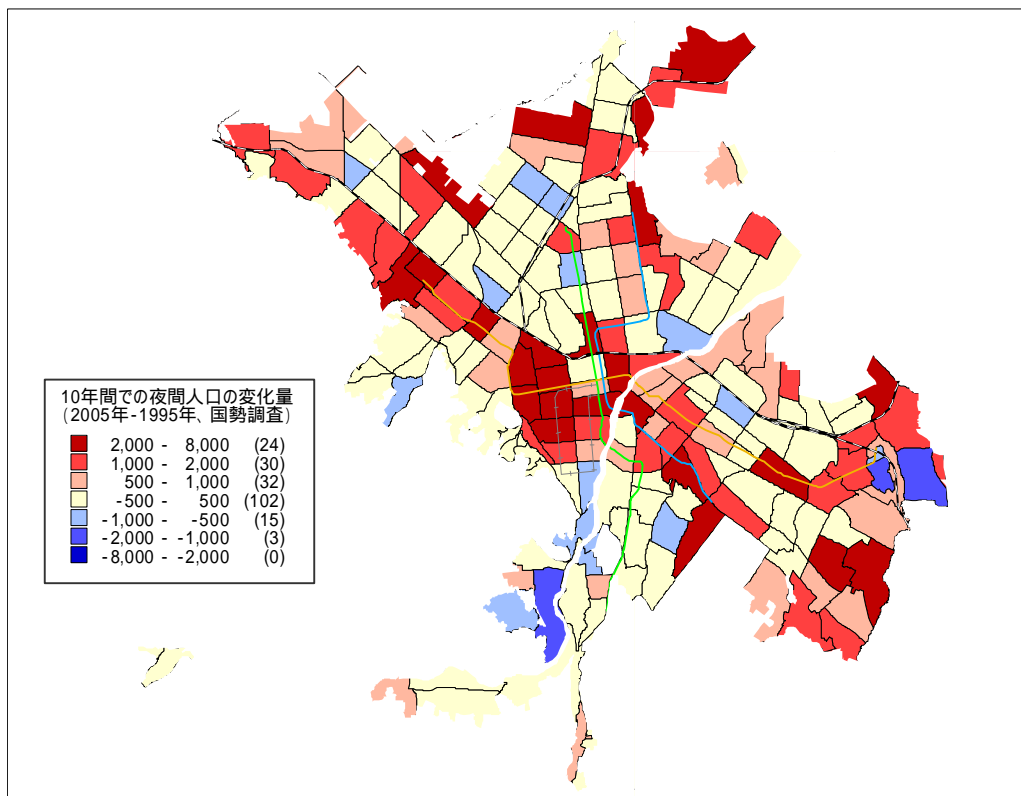
- 札幌市ではこれまで増加する人口の受け皿として、郊外へと市街地を拡大してきました。
- 近年の傾向では、鉄軌道沿線や新興住宅地では人口増加が見られる一方で、郊外住宅地で高齢化と人口減少が生じています。(次頁図)
- 急速な高齢化や人口減少が局所的に発生するなか、その対応が課題となります。



資料：札幌市の人口と住宅（2002年（平成14年））

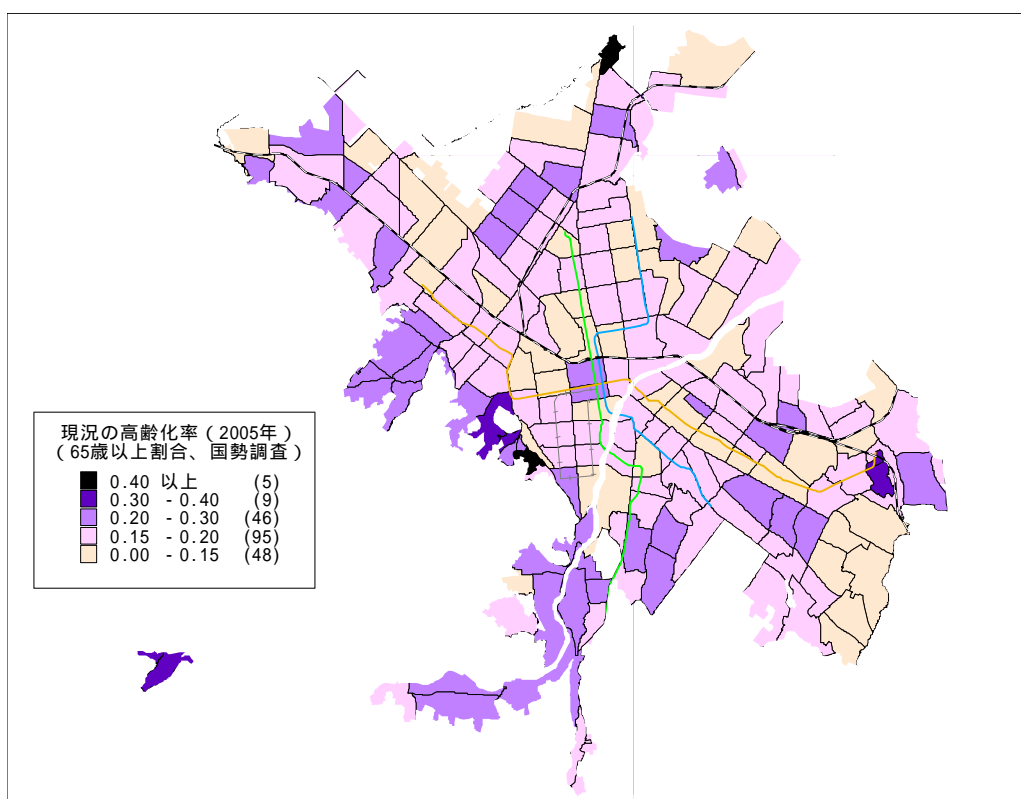
図2-3 札幌市のDID地区（人口集中地区）¹の変遷

¹統計データに基づいて一定の基準により都市的地域を定めたもの。国勢調査の調査区を基礎単位として、1)原則として人口密度が4,000人/km²以上の連続した調査区 2)調査区集合の人口が合計5,000人以上などを基準とする。



資料：国勢調査（1995年、2005年）

図 2-4 統計区²別人口増減（2005年と1995年の差）



資料：国勢調査（2005年）

図 2-5 統計区別高齢化率

²札幌市では、面積 100ha 前後、人口規模 10,000～20,000 人程度を基準に統計の地域単位を定めている。

(3) 医療

道内各地から通院・入院が集まる札幌市内の病院。

- 札幌市内、特に中央区は医療機関の集積が高い状況です。
- 札幌市では、道央圏内はもとより道内各地から入院患者を受け入れており、また、通院患者も道内各地より訪れています。

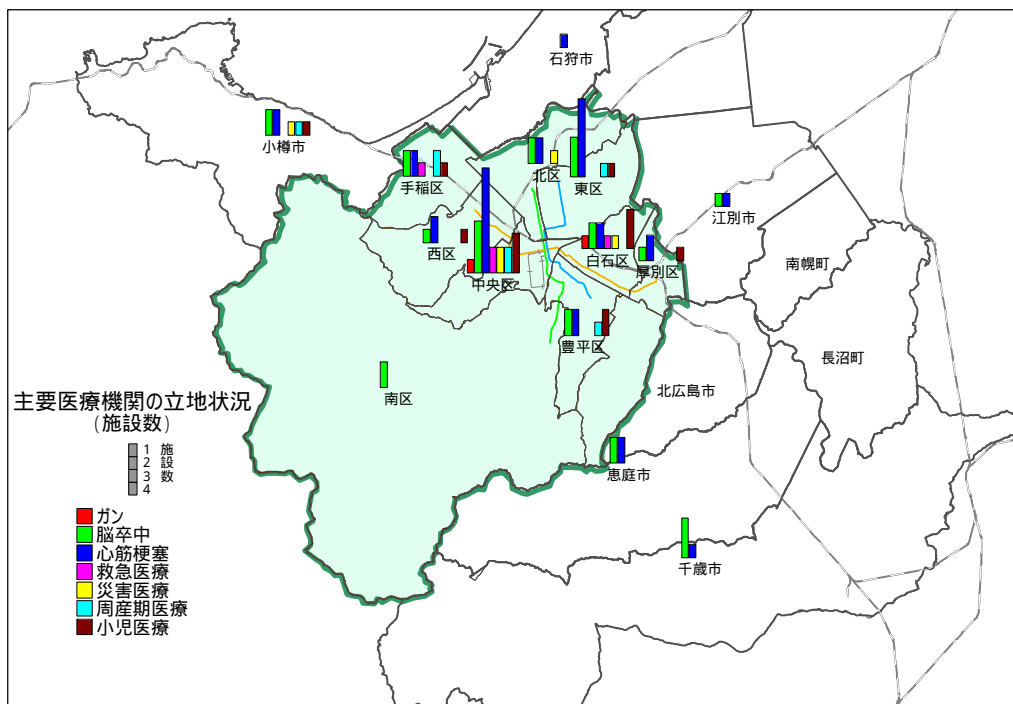


図 2-6 主要な医療機関³の立地状況 資料：北海道医療計画（2008年3月）

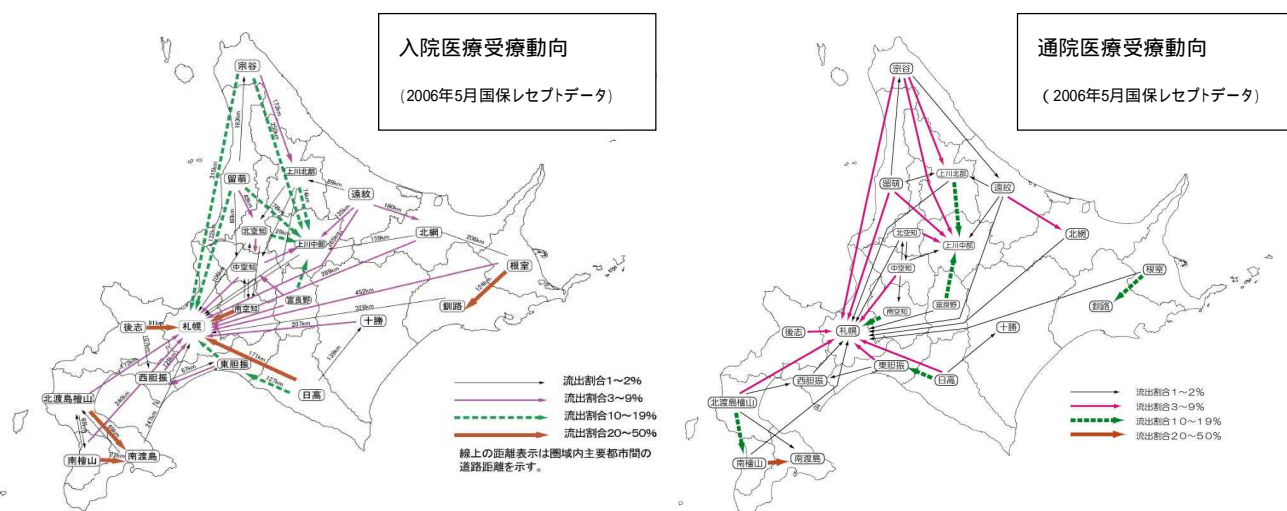


図 2-7 入院・通院の医療受療動向

³ 「北海道医療計画」において疾病・事業別の主要な役割づけがされている医療機関。